

PEの動向とパフォーマンス測定

清水 毅 CMA
秋山 潤一郎

目 次

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. はじめに | 5. GIPSで定められているPEのパフォーマンス測定方法 |
| 2. PEの動向 | 6. 日本におけるPEの評価に関する会計基準 |
| 3. PEのパフォーマンス実績 | 7. 日本におけるパフォーマンス測定の実践 |
| 4. 英国におけるPEのパフォーマンス測定 | 8. 終わりに |

世界のプライベートエクイティ（以下、PE）の運用資産残高は、2016年から25年までの9年間で2倍以上になることが予測されている。日本においても、投資家によってPEがアセットクラスの一つとしての認知度を高めることによりPEの成長機会を捉えるためには、日本におけるPEのパフォーマンスの測定・開示が有用と考えられる。本稿では、PEファンドのパフォーマンス測定と、日本における取組みについて概説する。

1. はじめに

日本でも大手企業のカーブアウト案件や事業継案件においてPEファンドの活用が広く認知されてきたことで、現在、PEファンドの投資金額

が拡大している。しかし、欧米主要国と比較すると、日本はその経済規模に比してPEファンドの投資規模はまだ小さいと言える。

日本におけるPEの業界団体である一般社団法人日本プライベート・エクイティ協会（以下、



清水 毅 (しみず たけし)

PwCあらた有限責任監査法人パートナー、資産運用インダストリーリーダー。30年以上の間、東京及びニューヨークにおいて、ファンド及び運用会社を中心とする金融機関に対して、監査及びアドバイザリー業務を提供。日本証券業協会・投資信託協会・日本投資顧問業協会により設置された「資産運用等に関するワーキング・グループ」委員を務める。主たる著書として、「投資信託の計理と決算」（中央経済社・共著）、「不動産投信の会計と税務」（中央経済社・共著）、「集団投資スキームの会計と税務」（中央経済社・共著）等。公認会計士。



秋山 潤一郎 (あきやま じゅんいちろう)

PwCあらた有限責任監査法人第三金融部（資産運用）シニアマネージャー。約20年の間、東京及び上海において金融機関、その他幅広い業種の会社に対して、監査及びアドバイザリー業務を提供。プライベートエクイティ・ファンド及びその運用会社の監査、ならびにプライベートエクイティ業界に対するアドバイザリー業務を数多く手がける。公認会計士。